

平成 22 年度第 4 回

恵那市外部評価試行委員会議事録（要約版）

日時：平成 22 年 12 月 16 日（木）15 時 00 分～

場所：中公民館 第 3 会議室

1. 委員長あいさつ

2. 会議の公開・会議録の公表について（確認）

3. 議事

①今後の評価方法と委員会について

- ・評価対象事業について

（選定の仕方・年間評価事業数など）

- ・各課ヒアリングについて

（説明資料・説明の仕方など）

- ・評価委員チェックシートの記入について

（評価の 4 視点・シートの様式、使い勝手・評価の取りまとめ方法など）

- ・評価結果の進行管理について

（評価結果、提案や意見の進行管理・評価の過程や結果の公表の仕方など）

- ・今後の委員会の在り方について

（委員の人数・委員会の回数・開催時期など）

②提言書について

4. その他

出席者（敬称略）

【委員】市川美彦 柴英子 田口譲 竹内泰夫 柘植麻美 服部ゆかり 宮地政臣

【事務局】企画部長 小嶋初夫 企画課長 西尾昌之 企画課係長 福平栄久 企画課主査 梶村一之

1. 委員長あいさつ

■委員長 前回に引き続き、今回議論していただく内容について、すでに資料を配らせていただいている。ご多忙の方もいるので、会議は最大2時間以内で行い、区切りのいいところまで議論していきたい。

2. 会議の公開・会議録の公表について（確認）

3. 議事

①今後の評価方法と委員会について

[事務局より説明]

■委員長 今回2名の委員の方から、事前に資料を提出していただいている。補足を含めて順次説明をいただいて、その後皆さんから意見をいただきたい。

[資料1について委員より説明]

・評価対象事業について

■委員長 これから事業の評価方法と今後の委員会について、5つの項目について整理をするが、順次委員から意見を伺いたい。

■委員 今回4事業の評価をさせていただいた。最小の努力で最大の効果を上げるため、評価をしていくことがいいかと思う。例えば、浄化槽補助において、地域によってはさまざまな理由から推進できていない。他課との連携をしながら問題を解決し、推進していくことが大切である。

■委員 資料に添って評価を行ったが、だんだん事業の内容が分かってきた。しかし、数値を読み取ることはできたが、それが適正な数値がどうか判断するのに、判断の基準になる数値が分かるとよかった。ヒアリングは分かりやすく、事業を行っている方の思いが伝わってきた。市民の立場から、そういった思いも評価できるとよいのではないか。

■委員 初めて聞く内容もあり、評価するのは難しかった。皆さんの意見を聞いて、だんだん、市民からみてどんな意見をいえばよいか分かってきた。今回4事業を評価したが、4事業が精一杯だった。数値を読み取る力が必要なので、評価委員は難しいと感じた。

■委員 評価対象事業は、外部委員が決めるのが望ましいと思う。全事業が何年かで一度、回るように選定したらどうか。一度に多くの事業はできないので、いくつかのグループに分けて評価を行い、全体でまとめるのもよいのではないか。

■委員長 今回の4事業は、行政が選んで委員が評価したが、委員会が事業を選定した方が、市民的立場から見ると公平性がある。選定の仕方は、評価委員会が選定するのが良い

と思うがそれでよいか。

・各課ヒアリングについて

- 委員長 4 事業の説明資料について、これで十分という意見と、財源内訳や事業に伴う数字の資料を求める意見があった。具体的な意見をお願いします。
- 委員 事務事業成果表にある数値の他に、さらに詳しい数値を各課で持っているはずである。成果表に載せなくてもよいので、財源の内訳、受益者負担の内訳、減価償却費などを提示していただきたい。
- 事務局 事務事業成果表については、システムから打ち出す表になるので、大幅な変更は難しい。評価対象事業についての必要な情報については、別に用意することは可能である。
- 委員長 財源内訳、事業費の内訳、類似事業の数値は評価するのに最低限必要であるので、用意するように努力していただきたい。
- 委員 チェックシートは基本的には今のままでいい。付け加えることとして、委員がチェック項目を考えるとよいのでは。
- 委員 ヒアリングは全て理解できたわけではないが、自分なりに理解した。
- 委員 事業によっては質問事項がたくさんあった。事前に質問事項を担当課へ送り、あらかじめ回答をいただくと、時間の節約になるのでは。
- 委員長 事前に質問を提出することで、時間の節約になるということだが、事務局として対応できるか。
- 事務局 事前に意見を頂ければ、担当課で適切な回答を用意することができる。また、担当課で説明の資料を用意することもできる。
- 委員 今回4事業評価した中には、見直しや廃止という結果もあった。担当課は、恒例によって予算をつけていくのかどうか、英断をもって判断するのが大切と思う。
- 委員 現場に近い方の意見を、もう少し聞きたかった。
- 委員長 事業に合わせて、担当課の他に実務をやっている方に来ていただければ、より詳しく分かる。

・評価委員チェックシートの記入について

・評価結果の進行管理について

- 委員長 評価は前回の委員会でも取りまとめたが、今後の扱いをどうしていくか。評価結果、提案や意見の進行管理、評価の過程や結果の公表の仕方などについて、意見を頂きたい。
- 委員 6月に決算を閉めた時点で事業を選び出し、内部と外部の意見を聞きながら、次

年度の事務事業をどうするかを考えていくと、幅広い対応ができるのではないかと。

■委員 評価結果の進行管理は委員会から離れていくと思う。委員会において、進行管理まではできないのではないかと。進行管理は、市の担当課で意見を十分吸い上げて、管理すると考えている。

■委員 それぞれのチェックシートの○・×・△を付けたが、自分で付けた評価の根拠を記入できるようにするとよいのでは。特に有効性の「利用者一人当たりのコストは適正である」という視点では、いくらなので適正であると思ったか、などを記入できるとよい。

■委員 私はチェックシートの○・×・△の後に自分の評価した理由を付けた。そのことによって、その時点での自分の考えを検証することができる。しかし、全員がやると大変な作業になる。「利用者一人当たりのコストは適正である」という視点では、他市の類似事業や、民間のコストから判断できると思う。時間があるときは他市のホームページから類似事業を探して比較したりしている。ヒアリングの話に戻るが、事前質問・事前回答が理想的だと思う。しかし、時間が3週間ぐらいかかる。ヒアリングを1回の会議で4事業行うとして、40事業行うとすると、30週間かかる。6月から11月までの4ヵ月では、とても対応できない。20事業を5年かけて行うなど、考える必要がある。

■委員長 この委員会には要綱に示されているように、最終的にはヒアリングを受け、評価を出すわけであるが、行政的には進行管理をどのようにしていくのか。

■事務局 進行管理については、事務局に責任がある。評価をしていただいた提言を、事務局としてしっかり進行管理していく義務がある。進行管理についてご意見を伺ったのは、委員の方に進行管理について、こうあってほしいという思いを聞きたいということ。行財政改革や総合計画でも、計画を答申していただいて進行管理しているが、それと同じである。まずはそれぞれの事務の計画改善について、改善できた時点で委員会に報告していく。また、今後の展開方向に対して、翌年度の予算に反映するということであるが、行政評価というのは、国の事業仕分けと違って、すぐに翌年度の予算に反映させるのではなく、長いスパンで事務事業を改革改善していく。例えば今回の評価結果では、ユビキタス管理運営事業は一定期間後に廃止としている。評価結果が、来年度すぐ改革改善するべきとあれば、すぐやるべきであるが、急がないものについては、じっくり進行管理をしていく。事務局は、まだできてないことはなぜできていないかを。また、できたときには、できたことを委員会へ報告していく。今後、多くの事業が評価されていくと、評価の結果に対して、市側がどのように対応していくか、またどのように対応したのかが、蓄積されていくのでは。

■委員長 進行管理としては、委員の皆さまからどのようにしてほしいかとの視点で提起している。評価結果については、進行管理は事務局が行い、進行管理の結果について、委員会に報告していくということで、ご理解いただきたい。

・今後の委員会の在り方について

■委員長 本委員会に向けての在り方について、委員の人数・委員会の回数・開催時期など、委員から意見をいただきたい。

■委員 委員の人数は、今回ぐらいがよいのでは。発言、検討するのにあまり人数が多いと、意見がまとまりにくいのでは。人数を増やすのであれば、小委員会に分けるとよい。10人以内がよいと思う。回数については、かなりの回数が必要となると思うが、委員になる方はそれぞれの仕事があって、時間を割くのが困難であるので、年に4から5回と思う。

■委員 委員の人数は、このくらいの人数が発言しやすい。人数が多くなると、発言しないで会議が終わってしまうかもしれない。また、委員はある程度の理解がないと、十分な意見を言うことができない。

■委員 ある程度限られた人数で行ったほうが、意見が反映されたいい提言ができると思う。人数や回数については、行政の考え方に任せて行えばよいのではないか。

■委員 少人数のほうが意見を言いやすい。グループをいくつか作り、少人数制にすれば、評価する事業も増やせるのではないか。

■委員長 委員会の回数は4事業だけで、本日で4回目であるが、進行状況に応じて、委員の協力があれば、そのときの状況によるのではないか。

■委員 松本市は20人ぐらいで、事業評価と施策評価を行っている。八王子は5から6人で、施策評価を行っている。中津川市では市民委員が20人ぐらいでグループを5つ作り、職員が1グループに1人対応して行った。名古屋市では会計士の先生が中心となり、各課へ出向いてヒアリングをするなど、積極的に行っている。恵那市の都市規模、市民活動の規模から考えると、少人数で着実にやっていくのがよいのでは。

■委員 人数が多くなると、発言しにくくなる。グループを作るのであれば、もう少し人数を増やしてはどうか。回数については、仕事を持っている方もいるので、月に2回程度がよいのではないか。

■委員長 事業によって全体で評価していくのか、委員に受け持ってもらい効率的に評価していくのか、その都度考えていく。それに相応しい人数として、7から10人の委員を選定していただく。回数においては事業の内容と、委員会の時間の兼ね合いがあるが、それは委員会の中で検討していく。開催時期については、評価することによって翌年度の予算に反映できることもあれば、より長期的に問題が引き継がれて、予算に反映される場合もある。時期的には行政決算が終わった後に、委員会を立ち上げていく。

■事務局 今回試行ということで、委員の選定は行財政改革審議会、総合計画審議会の委員の方をお願いしており、ある程度市の事業に精通している方をお願いしている。今後、委員をどのように選定していくかを、委員会で議論していただきたい。

■委員 公募も1つの方法と思う。こういった委員会にぜひ関わってみたい方もいるので

は。

■委員 市民の目線といっても、この場で初めて勉強することもある。専門の知識がある方や、各部門の精通者など、バラエティに富んだ人を選ぶと、幅広い意見が聞けるのではないか。

■委員 公募がいいと思う。その中で専門性がある人や、主婦の目線でみられる人など、バラエティに富んだ組織の中で評価していくのが良い。

■委員 企業の経営に携わっている方に委員になっていただくのはどうか。

■委員 いろんな分野に渡って、男女のバランスが良いように選ぶとよいのでは。

■委員長 今回の試行委員会は市民代表というそれぞれの立場で選出されている。次回は公募や、行政の予算運営を企業運営から見るために企業経営者に委員になっていただきたい。また、男女含めた、多面的な見方ができる評価委員会にしたいという意見が出た。事務局はこれらの意見を参考にしながら人選してほしい。

②提言書について

■事務局 最終的に委員会の意見をまとめて、市長に提言していく。どういったものを作成するのか、提言書の枠組みを示させていただきたい。前回行った4事業の評価内容については記入してあるが、その他の部分は空白になっている。本日議論していただいた内容を、事務局でまとめさせていただくので、委員の方は後日確認をしていただきたい。

■委員長 提言書の様式について、まず「目次」がある。「はじめに」は空白になっている。「平成 22 年度外部評価試行委員会の活動」については次回委員会が開催されれば、第 5 回目が追加される。「外部評価試行委員会による評価結果」については4つ事業について前回の会議でまとめた。「外部評価制度の確立に向けた提言」は本日いただいた意見を集約する。この形式で外部評価試行委員会の提言とさせていただくが、その他に付け加えることがあれば、意見をいただきたい。無ければ、本日議論した内容を加えたものを次の会議で確認したい。

4. その他

■事務局 次回会議は来年の1月の後半に会議を開かせていただきたい。場所は後日連絡させていただく。

[第5回 平成23年1月21日(金)午後2時～]

[閉 会]